

# にいがた 畜産協会たより

公益社団法人  
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15  
全農にいがた第2ビル内  
TEL. 025-234-6781  
~6783



- 特集① (有)花田養豚場が全国優良畜産経営管理技術発表会で最優秀賞を受賞
- 特集② (株)神田酪農が農場HACCP認証を取得
- 特集③ 3年目を迎えた畜産女子会活動が本格稼働中



(株)神田酪農の皆さんとHACCPチームメンバー



山古志の勉強会に参加した女子会メンバーとご家族



表彰を受ける(有)花田養豚場の田中代表取締役

## 目次

- ◆年頭のご挨拶 ..... (2)
- ◆祝!! 全国優良畜産経営管理技術発表会で  
最優秀賞(農林水産大臣賞)を受賞  
~十日町市: 有限会社花田養豚場~ ..... (3)
- ◆株式会社神田酪農が  
農場HACCP認証を取得 ..... (4)
- ◆本格稼働中!  
3年目のにいがた畜産女子会 ..... (5)
- ◆CSF&ASF防疫演習を実施しました! ..... (6)
- ◆PRRS清浄化養豚講演会開催 ..... (6)
- ◆声のコーナー ..... (7)  
「お久しぶりです、新潟」  
北日本酪農ヘルパー利用組合  
酪農ヘルパー 阿部 嘉寛  
「感謝を行動で倍返し」  
養豚経営: 村上市 相馬 若葉
- ◆畜産安心ブランド生産農場だより ..... (8)
- ◆ちくさん女子の窓 ..... (8)
- ◆編集後記 ..... (8)



## 年頭のご挨拶



公益社団法人新潟県畜産協会

会長 今井 長 司

明けましておめでとうございます。

日ごろ、皆様方には当協会の業務推進に格別のご支援、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。令和2年という新しい年を迎えるにあたり、一言年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、記録的な猛暑が続き、秋には台風15号、19号がもたらした関東甲信越地方及び東北地方の記録的な大雨による河川の氾濫など、想定外の自然災害により、農業でも大きな被害が生じました。被災された地域の方々には一日も早く復旧・復興を成し、希望に満ちた年になることを心から願うものであります。

畜産情勢といたしまして、環太平洋経済連携協定（TPP）や日欧EPAが発効されたことにより、これらに対する国の畜産経営安定対策として、「畜産経営の安定に関する法律」に基づく牛マルキンと豚マルキンが開始されました。また、肉用子牛生産者補給金制度の保証基準価格等について大幅な引き上げがなされ、法制化マルキンの肉専用種には新潟県独自算定制度を導入し、自由貿易の高まる波に、更なる手厚い対策を講じているところです。

また、今年1月1日に日米貿易協定が発効され、日本農業はかつてない貿易自由化に足を踏み入れることとなりました。

このような社会環境の一方、国内においては26年振りに発生したCSFが懸命な防疫措置にもかかわらず、51例の継続発生を認め（令和元年12月20日現在）、1府8県で15万頭もの殺処分が行われており、該当する県では10月からワクチン接種を開始いたしました。当県では飼養衛生管理基準を遵守するとともに、イノシシ防護柵の設置等、発生防止対策を実施しているところです。また、海外ではASFが猛威を振るっており、家畜衛生対策に万全を期すことがより重要な状況となっております。

畜産経営においては、畜産物の取引価格は前年並に堅調に推移しているものの、依然として厳しい経営環境にあります。

当協会では、これらの情勢を踏まえ、行政と連携して所得向上対策をはじめ、価格安定対策、家畜衛生対策等に職員一丸となって取り組んでまいりますので、一層のご支援をお願いいたします。

最後に、畜産経営者、会員の皆様のご健勝とご発展を祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

## 祝!! 全国優良畜産経営管理技術発表会で最優秀賞(農林水産大臣賞)を受賞 十日町市：有限会社花田養豚場（養豚経営）

令和元年11月25日（月）、第59回農林水産祭参加行事として、公益社団法人中央畜産会の主催で「令和元年度全国優良畜産経営管理技術発表会」が東京都文京区で開催され、本県の有限会社花田養豚場（十日町市・養豚経営）が最優秀賞（農林水産大臣賞）を受賞しました。

この発表会は優秀な実績を収めている畜産経営の表彰と、その成果及びそれを支えた経営管理技術の普及拡大のために開催されたもので、全国の畜産協会等から推薦された事例のうち8事例が当日の発表会に選考され、有限会社花田養豚場は代表取締役の田中真さんが発表、妻の真衣子さんが同席しました。

### 有限会社花田養豚場の経営概要

有限会社花田養豚場は十日町・津南地域の養豚農場9戸で構成される「妻有畜産グループ」の一員として銘柄豚「妻有ポーク」の生産を行っています。この地域では隔離豚舎による外部導入豚の検疫等の地域防疫体制によって全国的に珍しいオーエスキー病・PRRSの清浄地域を維持しており、その優れた衛生管理によって、妻有畜産グループが定めた「生後3か月齢以降の豚への抗菌剤の飼料添加を禁止」という厳しい生産基準を実現しています。

現在農場を牽引する代表取締役の田中真さんとその双子の弟で専務兼農場長の田中力さんは、もともと養豚農家の出身ではありません。平成9年に真さんが農場に入社したことをきっかけに平成23年、創設者である丸山隆太さんから経営を引き継ぎ、県内でも珍しい血縁関係のない創業家から養豚業を第三者継承した経営となりました。

真さん・力さん兄弟は、妻有畜産グループの中心的な存在として、若手養豚生産者で組織する会「ぶたのしっぽ」を通じて地域全体の養豚従事者のスキルアップに取り組んでいるほか、十日町・津南地域の若手ファーマーズグループ「チャーはん」等を通じて積極的な情報発信を行っており、「地域には自分だけではない。自分の判断だけで農場の未来を決

めてしまうのではなく、仲間の声を聞ける環境を築く」ことを目標に、仲間との絆を深め、農業を通じた地域活性化に取り組んでいます。



発表する田中真さん

### 最優秀賞の評価ポイント

有限会社花田養豚場の取り組みは中央審査委員会において主に5つのポイントが評価され、最優秀賞の受賞となりました。

- ① 自動給餌ライン等の機械導入とウィークリー養豚の実践により省力化を実現
- ② 子豚の切歯の中止、哺乳中から出荷までの1腹飼いの実現、製氷機導入による母豚の暑熱対策などによる豚のストレス軽減
- ③ 導入豚は隔離豚舎にて検疫を行うなどの地域防疫体制の構築
- ④ 地域生産グループの中核としての積極的な活動・情報発信
- ⑤ 勉強会の開催による生産技術の向上



表彰式を終えた田中ご夫妻

# 株式会社神田酪農が農場HACCP認証を取得 ～ 県内3事例目 ～

## 農場HACCPとは

食品供給工程の各段階で必要な措置を講じることで食品の安全性を確保するHACCP（Hazard Analysis and Critical Control Point：危害要因分析・必須管理点）という衛生管理システムを畜産現場へ導入するために、平成21年8月に農林水産省から公表された第三者認証基準です。

食品生産の最上流である農場においてHACCPに取り組むことで、畜産物の生産から流通まで一貫した衛生管理を行うことが可能となります。これには食品としての畜産物の安全性を向上させる意義を持ち、これまで県内では酪農で1戸、養豚で1戸の計2戸の認証実績がありました。

令和元年10月8日付けで、阿賀野市の酪農経営、株式会社神田酪農が新たに農場HACCP認証を取得しましたのでその取り組みを紹介します。

## 農場の概要

株式会社神田酪農は阿賀野市で乳牛約80頭を飼養する酪農経営です。創業は大正9年で、現在は3代目の神田豊広さんが代表取締役を務めています。平成20年度には酪農家では珍しい自社ブランドを立ち上げ、「やすだ愛情牛乳」、「白鳥の翼」の名前でオリジナル牛乳を販売しており、平成26年にはジェラート店「みるばす」を自農場の隣に開店するなど、代々受け継いできた酪農を守っていききたいという神田さんの思いのもと、積極的に6次産業化に取り組んでいます。



衛生管理方針を宣言する神田豊広さん

## 農場HACCP認証までの取り組み

平成28年10月27日、自農場で生産した製品の販売促進につなげるために、第1回目のHACCPチーム検討会が開催されました。ここで農場従業員・担当獣医師・酪農にいがた阿賀野支所・普及センター・家畜保健衛生所・畜産協会の職員からなるHACCPチームが結成され、全員の前で神田さんが衛生管理方針を宣言し、構築に向けて取り組みがスタートしました。

その後、12回の検討会を経て農場内の作業工程、フローダイアグラムを完成させ、平成29年12月28日に推進農場に認定されました。さらに15回の検討会を重ねて危害要因の分析と必須管理点の設定、マネジメントに係る手法を構築し、令和元年7月1日に公益社団法人中央畜産会に認証申請、9月25日に現地審査を終え、10月8日付けで農場HACCP認証（第272号）を取得しました。



株式会社神田酪農の皆さん

## 農場HACCP認証の効果

今回の農場HACCP認証取得を受け、神田さんは「作業が明確になり、従業員と共有できるようになった。認証によって一つの目的を達成できたが、これで終わりではない。自分が居なくても農場の運営が成り立つようなシステムを構築することが最終的な目標。農場HACCPを活用して、持続可能な酪農経営を実現していきたい。」と抱負を述べました。

# 本格稼働中！ 3年目のにいがた畜産女子会

にいがた畜産女子会は、おかげさまで3年目を迎え、ますます元気に活動しております。今回は、そんな女子会の今年度の活動をご紹介します。

## 第2回ビジネスマナー講習会(7月19日)

昨年度に実施し、リピートの声が多かった講習会です。今回は相手の話の聞き方やクレーム対応などについて学び、実践的な知識を得ることができました。



ゲーム形式で学び、笑いがいっぱい起こったグループワーク



お子さんや旦那さんも同伴し、家族みんなで学びました

## 山古志伝統文化勉強会(9月22日)

家畜と人が関わる伝統文化を学びに、山古志の闘牛場にお邪魔しました。山古志角突き女子部の方々と交流したり、実際の闘牛を見学したりと、楽しみながら勉強しました。

## ふれあい畜産フェスタ2019に初参加(10月19日)

新潟ふるさと村で開催されたフェスタに初めてブースを出し、会員の自家産畜産物を販売しました。お客様への対応や、ブースへの呼び込みなど、「ものを売る」難しさを学ぶと同時に、多くの消費者と交流できました。



ステージに立ち、来場者に女子会をPR!

## 佐渡の畜産を学ぶ勉強会(11月18日~19日)

佐渡の畜産や文化を学ぶ勉強会を開催しました。個人の畜産現場やJAの畜産施設、農業の6次産業化事例や佐渡の文化を学ぶ施設など、訪問先はなんと7か所。とても充実した2日間でした。



多くの人と出会い、様々な経験ができました。



上で紹介した活動の詳しい内容は、女子会ウェブページに掲載中ですので、ぜひご覧ください。これからも様々な活動をして参りますので、今後とも「にいがた畜産女子会」をよろしくお願いいたします！

女子会  
ウェブページ  
はコチラ



3月17日(火)には  
「ものづくり教室」を開催します!

## CSF&ASF防疫演習を実施しました！ (地域自衛防疫推進事業)

当協会では、地域の自衛防疫意識向上を推進するため、平成25年から県内各地で生産者団体と共催して防疫演習を実施しています。

今年度は国内におけるCSFの発生、近隣国におけるASFの蔓延に対し、両疾病から農場を守るため、混合消毒薬の推奨、家畜運搬車の車両消毒方法、交差汚染対策のための農場レイアウトなど実践的な内容をテーマに、下記のとおり県内3か所で防疫演習を実施しました。

日付	会場	参加人数
10月30日(水)	村上地域振興局	43名
11月8日(金)	十日町地域振興局	33名
11月29日(金)	新潟地域振興局 巻農業振興部	37名

悪性伝染病から農場を守るためには地域ぐるみで防疫体制を築く事が重要です。

当協会では来年度も同規模の防疫演習開催を予定しています。



防疫演習の様子

## PRRS清浄化養豚講演会開催 (地域豚疾病緊急対策推進事業)

10月4日(金)、新潟県自治会館にてPRRS養豚講演会を開催しました。当日は株式会社スワインエクステンション&コンサルティングの大竹聡先生から「PRRS撲滅対策～清浄化の維持と意義～」と題して講演をいただくとともに、下越家畜保健衛生所企画指導課の村山修吾副参事から今年度が最終年度である養豚農場PRRS撲滅対策事業について下記のとおり成果の報告を受けました。

養豚農場PRRS撲滅対策事業取組成果		
	事業実施前	令和元年9月
陽性	44農場	6農場
陰性	80農場	113農場

当日は生産者も含め42名の出席があり、総合討論では野生鳥獣対策をはじめとした自衛防疫について活発な意見交換がなされ、来場者の防疫意識の高まりが感じられました。



大竹聡先生



村山修吾副参事

畜産映像情報

(公社) 中央畜産会からのお知らせ

# がんばる!畜産!3

畜産現場の“今”を30分の番組にしました!  
映像を各種研修会、セミナーにご活用ください!  
配信中の内容: IoT技術の活用/農場HACCP/搾乳ロボット/他

◀スマートフォンからはこちら  
▼パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産

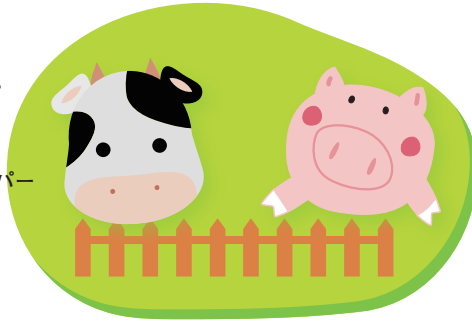
(公社) 中央畜産会 経営支援部(情報) TEL03-6206-0846



酪農ヘルパー

北日本酪農ヘルパー  
利用組合

阿部 嘉寛



養豚経営

村上市高根

相馬 若葉



## 『お久しぶりです、新潟』

はじめまして、阿部嘉寛と申します。12年ぶりに新発田に戻ってきました。高校卒業後は茨城県にある鯉淵学園農業栄養専門学校で4年間学ばせていただき、共進会などに参加させてもらう中で、縁あって北海道の十勝にある牧場に就職して、そこで8年ほど従業員として働いていました。北海道の冬の寒さはもの凄いなものでした。その代わり夏は過ごしやすかったため、久しぶりに帰ってきた新潟の夏はものすごく暑いなあと思いました。

去年の春からは、月の半分を北日本酪農ヘルパー利用組合のサブヘルパーとして、もう半分を実家の牧場で働いています。1番最初にヘルパーで働くにあたって心配になったことは牧場の場所を覚えることでした。実際に働きだしてみると、北海道で従業員をしていた時と違って、餌のやり方、飼養形態の違い、搾乳手順など派遣先毎に色々違いがあり、今でも戸惑うことが沢山あります。それでも先輩ヘルパーに聞いたり、農家の人に聞いたりしながら、なんとかこなせているのかなあ？と思います。また、派遣先の農家さんの良いなと思った所は、自分の家でも実践してみたりしたいと思います。

実家の牧場でも苦勞することはたくさんあります。帰ってきて1年目は夏場、畜舎の気温がどうにかできないかトンネル換気、水の散布など、牛の過ごしやすい環境を作ってあげるのが凄いなあと思いました。北海道では昼間暑くても、夜になって涼しくなれば餌をよく食べてくれていたのに、新潟では夜も暑い日が多くて参りました。

一方で牧草の収穫・運搬・草地の管理など従業員をしていた時にはあまりしていなかった仕事などもあり、面白いなあと思います。日頃の管理では、今年から牛群検定を取り入れ、少しでもいい牛乳を出荷できるよう頑張りたいのと、繁殖成績の向上、長命連産な牛群を作っていけたらと思います。

## 『感謝を行動で倍返し』

“新しい事に興味を持ち、挑戦してみたくなる”そんな性格の私の人生は、変化の多い人生です。特に去年は新しい事ばかりで刺激的な年でした。

昨年4月末まで、私は夫と4人の子供たちの6人家族で東京に住んでおり、私は携帯電話の販売や営業職をしていました。そんな養豚と無縁の私が両親と弟夫婦の営む養豚農場に就農したきっかけは、“恩返し”ができると思ったからです。

「お父さんの体調がよくない」の一言で仕事を辞め、家族6人で新潟の実家へ帰りました。今思えば、弱音を吐かず、口答えなど言語道断の頑固親父が弱っているという事実を私には受け止められなかったのだと思います。

いざ養豚を始めてみると、豚の知識が一切なく、毎朝のミーティングでは質問ばかりしていますが、知る情報はすべて新しい情報なので、私には新鮮で面白いのです。母豚は寒さに強いのに子豚は寒さに弱い事。その子豚は暖を求めて母豚に近づき、つぶされてしまうことがあるなど、はじめはいろんな感情で見たり、疑問に感じたりしました。そんな私の“ふとした疑問”は尽きる事がなく、疑問を解消するために、「こうしたらどうか？」という提案をすることになりました。両親は「思った事を好きにやってみなさい」と何でも自由にやらせてくれました。例えば、CSFで騒いでいるのに業者が消毒せずに農場に入ってくる。これには“疾病予防のため立入禁止”のポスターを作成し、ゲート前で連絡の上、消毒してからの入場を徹底しました。それから、記入欄が小さいのに書くことが多い規模表。これは豚舎毎に記入の多い上位3項目をレ点のチェックで済むよう改良しました。現場の手間を減らし、集計時の時間短縮にもつながりました。

現在は、データ管理等の事務全般を任せられています。数字は嘘をつきませんので、データの分析をして現場との連携を密にする事で、どこまで良い会社にできるかが私の課題であり、楽しみのひとつです。

体調が悪いと言っていた父ですが、今でも毎日頑張って仕事をしています。母に内緒でビールを買って渡すという、私は父の“悪友”です。皆さん、母には秘密ですよ(笑)

両親の育てた豚肉は、世界一美味しいと思って食べてきました。両親が命がけで守ってくれた会社の成績を上げ、たくさんの方に自分たちの育てた豚肉を食べてもらう事が私の夢です。そのためにも常にチャレンジすることを忘れず、家族みんなで幸せに頑張っていきます。

## 畜産安心ブランド生産農場だより

南魚沼市：阿部酪農

父が高校を卒業してから始めた阿部酪農ですが、現在は家族で成牛約60頭と子牛約20頭を飼育し、育成牛は約20頭を北海道に預託して自家産主体で後継牛の確保を優先した経営を行っています。

私は5年半の会社員を経て就農し8年目になりますが、目下の課題は繁殖成績の向上だと考えています。そのために必要なのは飼養管理と観察による牛の状態の把握であり、その重要性和難しさを日々痛感しています。

平成26年12月にクリーンミルク生産農場に認定されましたが、その過程で乳量だけでなく、乳質からも牛の健康を意識するようになりました。当たり前のことかもしれませんが、良質な牛乳は健康な牛から生産されます。やはり重要なのは牛の健康で、自分の仕事はいかに牛が能力を発揮しやすい環境を整えられるかだと思っています。

最後に夢というほどではありませんが、家族に酪農を続けていて良かったと思ってもらえるような酪農経営にしていきたいと思っています。



## ちくさん女子の窓

酪農経営 胎内市：高井 智江

幼い頃からずっと身近に感じていた牛の存在。当たり前には牛がいて気がついたら私も牛のお世話をしていました。農業高校に入り、研修で行った北海道の酪農家の方から、「搾乳は女性の方が上手。特にお母さんはね。」と言っていたことをよく覚えています。

今では、私も2児の母になり乳牛の気持ちもなんとなくわかるようになりました（笑）

今は酪農のお仕事から少し離れていますが、だからこそいつでも牛乳が飲める環境ってありがたかったんだと思います。

世間では牛乳の存在に賛否両論ありますが、子供に食べさせたいもの、飲ませたいものはやっぱり安心安全、無添加、国産と表記されているもの。輸入品もたくさんある中で手軽に買える牛乳が100%国産というのは子を持つ母として嬉しい限りです。牛さん酪農家さん毎日ありがとう！



## 編集後記



明けましておめでとうございます。新しい年が皆様にとりまして幸多き年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、5月1日に徳仁天皇が御即位され、新元号・令和として新しい時代がスタートした記念すべき年でありました。その記念すべき年に「全国優良畜産経営管理技術発表会」におきまして、当協会が推薦した有限会社花田養豚場が最高位の農林水産大臣賞を受賞されました。第三者継承による経営継続、日ごろの管理技術、高度な衛生対策、活発な地域活動などが評価されての受賞ですが、今後の益々の経営発展に期待しているところです。

有限会社花田養豚場は、令和2年度に開催される「第59回農林水産祭」へ推薦されることとなりますが、更なる受賞（天皇賞、内閣総理大臣賞）を目指して、当協会も微力ながら資料作成等のお手伝いさせていただく予定です。（谷川 記）